目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第57号　2012年12月

発行人：大野　利幸　編集長：地田　博昌　事務局長：小杉　　哲

事務局：〒152－0023　目黒区八雲4－9－14　Tel 090－7825－6270

2013年　新年会のご案内

2013年新年会を1月20日（日）目黒雅叙園にて、下記の通り開催致します。

毎年講演などのイベントを企画しておりますが、明年は本会会員・河村晋彦様（昭52教育）を中心に、落語と奇術でお楽しみ頂きます。演目は得意中の得意、ご当地「目黒のさんま」です。年の初めに大いに笑い、大いに楽しみ、縁起の良い一年として行きたいと思います。

これまでも目黒稲門会会員の中から、ハワイアンバンド、マンドリンオーケストラ、チアリーディング、あるいは貴重なご経験のご披露、俳句や絵画の展示などを願ってきました。お一人お一人が個性を輝かせることで、会員同士の絆が一層深まり、本会の益々の発展につながるものと思います。明年の初笑いは目黒稲門会新年会で。皆様お誘い合わせの上、賑々しく開催して参りましょう。

記

1．日　時：2013年1月20日（日）16時開会
　　（受付開始　15時30分）

2．会　場：目黒雅叙園　（2F　華しずかの間）
　　〒153－0064
　　東京都目黒区下目黒1－8－1
　　電話　03－3491－4111
　　JR目黒駅西口、東急目黒線、地下鉄南北線、三田線目黒駅から行人坂を下って3分
　　（権之助坂を下って5分）

3．演　芸：16時～17時
　　奇術　松旭斎美登
　　落語『目黒のさんま』めだか亭めだか

4．懇親会：17時～19時

5．会　費：会員10,000円、ご家族5,000円
　　当日会場受付にてお支払い下さい。

6．同封の返信用はがきを、12月20日（木）までにご返送下さい。

（演者略歴）

めだか亭めだか（河村晋彦）

＜左の写真は高校時代のもの＞

目黒区生まれ。

早大教育学部教育学科昭和52年卒。小学生から寄席通い。都立目黒高校では落語研究会会長。早大進学後は老人ホーム慰問など落語を通じたボランティア活動。現在は、家業の工場を経営する実業家。趣味は広く、ボクシング、詩作、歌劇・演劇鑑賞など。

松旭斎美登（しょうきょくさい　みと）

岩手県出身。松旭斎美智師匠に入門。寄席、テレビ等出演多数。手話を通じてボランティアも。めだかさんとは、都立目黒高校出身の立川ぜん馬師匠を通じての親交。

（田島　記）

各部会からの案内・報告

美術・歴史鑑賞部会

９月５日（水）、上野・西洋美術館にて「ベルリン国立美術館展」鑑賞。参加14名。

本邦初公開の、「真珠の耳飾りの少女」と並ぶフェルメールの名作「真珠の首飾りの少女」など、15世紀～18世紀までのヨーロッパ美術400年の精華107点を鑑賞しました。

10月３日（水）、ルノワールの「ピアノに向かうイヴォンヌとクリステイーヌ・ルロール」（オランジュリー美術館）を表紙にした『ドビュッシ―、音楽と美術展』のパンフレットに魅了されて、ブリヂストン美術館へ。10時20分、参加申し込みメンバー14名全員遅刻もなく入館。名画の一つ一つをゆっくりと鑑賞しました。

エドワード・バーン＝ジョーンズ「王女サブラ」、モーリス・ドニ「ミューズたち」、マルセル・バシエ「クロード・ドビュッシ―の肖像」、エドガー・ドガ「レオポール・ルヴエールの肖像」、ポール・ゴーガン「ポン＝タヴエン付近の風景」、クロード・モネ「睡蓮」――作品の多さ（151点）にも驚きました。

鑑賞後は京橋にある「美々卯」（うどんすきで有名）で昼食を食べ解散しました。

次回は、「メトロポリタン美術館展」を計画しています。日時等決まり次第ご案内いたします。

美術・歴史鑑賞部会長　　後藤克彦

麻雀部会

１．目黒区・世田谷区・大田区、３区親善麻雀大会を11月24日（土）、渋谷「スリーハンドレッド」にて開催。

２．12月９日（日）、第48回定例麻雀大会が武蔵小山「サン」にて開催されます。皆様奮ってご参加下さい。大会後、井門にて忘年会があります。

麻雀部会長　　鵜野洋治

ウォーキング部会

大分天候も落ち着いてきましたが、皆さん歩いていますか。健康のために一緒に歩きましょう。

＜実施報告＞

９月：三浦一族の和田の遺跡を巡る
　　天候に恵まれ14名参加。最後は三崎港にてマグロ。

９月特別部会：首相官邸見学会
　　めったに見られない官邸を見学しました。
　　参加16名。

10月：筑波山ハイキング
　　参加11名。つつじヶ丘、弁慶茶屋跡を経由して女体山（東の峰）に登り、その後御幸ヶ原へ。男体山（西の峰）側も登頂し、山頂駅よりケーブルカーで下山しました。
　　「弁慶七戻り」などの奇岩を巡る急峻な登山道は少々ハードでしたが、初秋の登山を満喫しました。

11月：大船観音から鎌倉北側の由緒ある寺院歩き

＜今後の予定＞

12月：鬼平犯科帳を歩く――三田の寺町から品川へ
　　参考：鬼平犯科帳第９巻「本門寺暮雪」
　　日時　12月12日（水）　午後１時
　　場所　JR田町駅改札外

１月：そぞろ歩きが似合う橋、横浜臨港線・山下臨港線を歩く
　　日時　１月15日（火）　午後１時
　　場所　JR桜木町改札外

２月：都心の公園を歩く
　　小石川後楽園、浜離宮恩賜庭園から旧芝離宮恩賜庭園まで
　　日時　２月19日（火）　午後１時
　　場所　地下鉄南北線飯田橋駅改札外

参加希望の方は牧野まで連絡ください。

ウォーキング部会長　　牧野武夫

ゴルフ部会

―ホール・イン・ワンが出た！！―

去る10月24日（水）、第31回ゴルフ部会を千葉県グレンオークスカントリークラブにおいて開催しました。当日は25名が参加、稲門祭記念品のお揃いのゴルフ帽をかぶり、秋晴れの下、賑やかにプレーしました。

なんと、31回の部会で初めて小池早苗さんがアウトの５番（115ヤード）でホール・イン・ワンの快挙を達成しました。おめでとうございます。試合結果は、優勝、猪名川一雄氏、２位青柳勝氏、３位吉本政治氏と今回も実力者が上位を占めました。

次回は来年４月中旬を予定しております。

ゴルフ部会長　　大杉邦雄

囲碁部会

９月30日（日）、日本棋院にて、第12回稲穂会囲碁大会が行われました。囲碁会現役と都内の校友囲碁愛好家との親善を目的とした大会ですが、従来は50名程度の規模で、学生会館を使用していたのを、今回は各稲門会からの参加者を多く募り、現役13名を含む100名規模の大会になりました。

今回の特徴は、従来のように８名を一組として複数組からなる個人戦に加え、無差別級の個人戦とペア碁（男女８ペアで合計16名）を取り入れ、愛好家の範囲を広げたことです。

目黒稲門会からは、無差別級とＡ～Ｈ組との個人戦に以下の方が参加しました。

保井３段、永田初段、増井初段、鵜野初段、大久保７段の５名

結果は、以下の方々が健闘され、好成績を収められました。

永田初段：Ｇ組、優勝、全勝

増井初段：Ｇ組、準優勝、３勝１敗

鵜野初段：Ｈ組、優勝、３勝１敗

囲碁部会長　　大久保健治

俳句部会

俳句は何を詠めばよいのですか、とよく聞かれますが特に俳句を詠む対象に制限はありません。散歩や旅行時には自然界の新しい発見や感動を受けた景色があるかもしれません。あるいはその土地の人々の温かい人情に出会うこともあります。だが常にアンテナを張っていると、あんがい身近な日常に俳句の対象があるものです。

第45回「萩句会報告」（順不同）
日時　10月19日（金）　14時～17時

川井　素山　　洋館のペンキ塗る背に秋日射す
保井　寶正　　秋朝の勤行の声響きけり
牧野　里山　　野仏のすすきの原に顔を出し
青木　英林　　畑に見し今年最後の秋の蝶
後藤　克彦　　立秋の日差し柔らか簾取る
丸山酔宵子　　突風に羽根張りゆがむ秋の蝶
菊地　崇之　　孫娘追っかけ写す運動会
米田　文彦　　路地奥に並ぶ鉢植秋の蝶
佐久間　喬　　秋の蝶ふはりの彼方八ヶ岳
永井　正孝　　生垣に沿ふて漂ふ秋の蝶
佐々木彩女　　背伸びして小さき老婆柿を干す
阿部　一掬　　秋蝶に負いし子の手が伸びにけり
安藤　虎酔　　色づきて在り処を知らす庭の柿
（参考）
佐藤　喜仙　　流れ藻に翅休めをり秋の蝶

俳句部会長　　佐藤喜孝

若木会

８月31日（金）目黒三田会若手との交流を図る『目黒大福会』を、慶応の若手代表、斉藤泰宏氏の協力を得て企画・実現いたしました。慶応、早稲田共にリラックスして、すぐに打ち解け、今後の活動の指針等についても話題に上り、非常に有意義なものとなりました。これを機会に、様々な早慶コラボ企画を実施していきたいと考えております。

10月９日（火）、12月実施予定の首都圏若手校友対象の交流会（毎年２回開催）幹事区として、目黒若木会から中西、笠谷、石川が参加。当日の役割分担・場所の確認の打ち合わせを実施しました。

11月４日（日）、目黒稲門会若手ホープである宮崎慈子さんが、新たなチャレンジで海外へ躍進することになりました。若木会主催で、ささやかながら壮行会を企画しました。後日、パーティーの様子を報告いたします。

若木会部会長　　中西元樹

グルメ部会

８月25日（土）の午後４時過ぎ、厩橋のたもとの船宿から25名の会員が屋形船に乗りこみました。船内は冷房がきいて涼しく、快適でした。出航と同時に乾杯、ビールやソフトドリンクでのどを潤しました。テーブルにはマグロ、イカ、甘エビなどのお刺身の舟盛り、蒸したカニが並べられており、早速、箸をつけました。

船は隅田川を南下して東京湾へと向かいます。船からの目線で眺める両岸の風景は日ごろと違う新鮮なものでした。ここでお待ちかねの揚げたての天ぷらが出てきました。エビ、キス、アナゴ、季節のお野菜です。どれもおいしくいただきました。

お台場沖に到着して、約30分停船しました。屋上に上がると川風が心地よく、フジテレビなどの周囲の景観を楽しみました。アサリの佃煮を売る小舟が寄ってきて、買い求める方もいらっしゃいました。

その後、隅田川を北上し、吾妻橋と言問橋の中間でふたたび停船して目の前の東京スカイツリーを眺めました。スカイツリーを背景に写真を撮る会員がたくさんおられました。午後6時半過ぎ、楽しかった船の旅も終り、すっかり暗くなった厩橋を後にしました。

９月27日（木）と10月10日（水）に恒例の新そば会を「更科堀井」で開催しました。参加者は両日とも９名でした。

グルメ部会長　　海沼美智子

ＨＰ便り

目黒稲門会ホームページ（HP）には早稲田大学、近隣稲門会等へのリンクも張られています。それらのHPへの窓口としてもご活用ください。

昨今携帯で目黒稲門会ホームページ（HP）をご覧になる方も増えてきました。目黒稲門会ホームページ（HP）中央最下部にあるバーコードを携帯で読み取ってご利用願います。　　（小杉　記）

校友会便り

９月23日（日）東京都23区支部大会開催

大会には各稲門会から約270名が出席、目黒からは大野会長以下10名が出席した。

「鎌田総長にお聞きする場」が設けられ、目黒稲門会からの質問が取り上げられた。

質問：ワセダカラーの基準色は大学が定めたものと、校友会が定めたものとがあるが、一本化できないものか。

司会進行者で、質問を披露した塩浜23区支部長のコメント：スクールカラーの統一は今すぐ結論が出る問題ではないが、研究すべき問題と思うが？

鎌田総長の回答：支部長の意見に全面的に賛成です。現在はサークルごとに色を定めており、これを即座にこの色にするとは決められない。

だが、これからはブランドイメージを強く意識してブランド価値の向上をはからなければならない。考えさせられることなので、今後検討を続けたい。

（井村　記）

2012稲門祭開催

校友会最大のイベント2012稲門祭が、好天に恵まれた10月21日（日）、キャンパス・大隈庭園で盛大に開催されました。

大隈講堂でのセレモニーのほか、8号館･記念会堂･小野講堂では講演会や音楽祭が催され、キャンパスには沢山の各地校友会の出店もあって、大いに楽しませてくれました。

大隈庭園では、恒例の各校友会による飲食の屋台がずらりと並び、メインコーナーでは音楽やフラダンスなどが次々と繰り出され賑やかでした。目黒稲門会もメインコーナーの最前列に陣取り、暑い日差しの中お酒を酌み交わしながら盛り上がりました。

ベンツ、ホンダフィットが当るお楽しみの抽せん会では、残念ながら目黒からの当選はなりませんでした。来年に期待しましょう。

目黒から実行委員として参画された皆さん、お祭りを盛り上げていただいた目黒の皆さん、お疲れ様でした。　　（地田　記）

特別記事

データで見る目黒稲門会

広報編集委員
猪名川一雄　（昭和45年　政経）

目黒稲門会名簿から、いろいろな集計をしてみました。対象は2012年８月１日現在の会員168名です。

１．男女別の構成比

７月の総会で、大学からの来賓が女子学生の比率は35％というお話をされました。目黒稲門会の女性比率は11％で、男性比率がかなり高い状況です。筆者の学生時代も女子学生は文学部を除けば少数でした。先輩会員の頃はもっと少数であったろうと思います。現在の早稲田大学の女子学生比率ですが、政経学部で26％、理工学部でも15％です。筆者の頃に比べると隔世の感があります。

しかし、卒年が平成の会員に限ると女性比率は30％に上昇し、大学の女子学生比率に近づきます。

表１　男女の構成比

	目黒稲門会			
			内　卒年が平成	
	人数	占率	人数	占率
男性	150名	89%	16名	70%
女性	18名	11%	7名	30%

２．年齢構成

年齢は2012年12月１日時点の満年齢で計算しました。最も多いのは70歳代の58名（38％）、ついで60歳代の38名(25％)です。80歳代以上の方も31名(21％)おられます。会員の平均年齢は69.5歳です。

稲門会へ入会するのはリタイヤしてからが多いので、やむを得ない面もありますが、やはり高齢化が懸念されます。今以上に若手会員の入会に力を入れていく必要があるでしょう。

表２　年代別構成比

	人数	占率
20歳代	3名	2%
30歳代	3名	2%
40歳代	11名	7%
50歳代	7名	5%
60歳代	38名	25%
70歳代	58名	38%
80歳代以上	31名	21%

３．出身学部

政経学部が最も多く、38名（23％）です。以下、法学部34名（20％）、商学部34名（20％）、理工学部27名（16％）、文学部19名（11％）、教育学部６名（４％）、社会学部４名（２％）、人間科学部１名（１％）となっています。また、大学院出身が５名います。

表３　出身学部

	人数	占率
政　経	38名	23%
法	34名	20%
商	34名	20%
理　工	27名	16%
文	19名	11%
教　育	6名	4%
社　会	4名	2%
人　科	1名	1%
大学院	5名	3%

４．出身高校トップ５

出身高校は早稲田大学高等学院（以下、学院）が30名で圧倒的なトップです。男性会員は150名ですので、５人に１人は学院出身ということになります。学院出身がこのように多いのは何故か、何人かの学院出身の方にうかがってみましたが、これという答えは出ませんでした。高校から早稲田ということで、早稲田を愛する気持ち、早稲田への帰属意識が強いので、稲門会への入会を勧誘された際に入会する割合が他の高校出身者よりも高いのでしょうか。

２位は都立戸山高校、都立目黒高校、都立広尾高校、都立第一商業の各４名です。

５．居住地区

目黒区では区内を北部(駒場、青葉台など)、東部(中目黒、下目黒など)、中央（五本木、鷹番など)、西部（八雲、柿の木坂など)、南部（碑文谷、洗足など）の５つの地区に分けています。会員の居住地区の分布は次のとおりです。

なお、目黒区外に居住する会員は22名です。

表４　居住地区

	目黒稲門会		目黒区全体
北部地区	23名	16%	20%
東部地区	31名	21%	19%
中央地区	24名	16%	18%
西部地区	40名	27%	24%
南部地区	28名	19%	19%

目黒区全体の分布と比較すると、北部がやや少なく、西部がやや多くなっています。居住している町単位でのトップ10は次のとおりです。

表５　居住している町単位でのトップ10

1	目黒本町	14名	6	八　　雲	9名
2	柿の木坂	11名	8	三　　田	8名
3	上 目 黒	10名	9	洗　　足	7名
3	中 目 黒	10名	10	青 葉 台	6名
3	五 本 木	10名	10	碑 文 谷	6名
6	下 目 黒	9名			

６．出身府県

便宜的に出身高校の所在地を出身府県としました。

会員の出身は28の府県にまたがっています。東京出身がほぼ2/3を占めています。

表６　出身府県

	人数	占率
東　京	104名	64%
神奈川	8名	5%
愛　知	4名	2%
千　葉	3名	2%
山　梨	3名	2%
長　野	3名	2%
大　阪	3名	2%
兵　庫	3名	2%
福　岡	3名	2%
長　崎	3名	2%
埼　玉	2名	1%
群　馬	2名	1%
山　形	2名	1%
富　山	2名	1%
石　川	2名	1%
三　重	2名	1%
広　島	2名	1%
大　分	2名	1%
北海道	1名	—
青　森	1名	—
岩　手	1名	—
宮　城	1名	—
福　島	1名	—
栃　木	1名	—
岐　阜	1名	—
新　潟	1名	—
山　口	1名	—
熊　本	1名	—

７．趣味

会員の趣味で最も多いのはゴルフの67名です。会員総数の40%を占めます。次いで旅行の31名、読書の22名、囲碁の16名、麻雀の15名となっています。読書を除いて、いずれも目黒稲門会の部会となっているのは納得できます。

表７　趣味のトップ10

1	ゴ ル フ	67名
2	旅　　行	31名
3	読　　書	22名
4	囲　　碁	16名
5	麻　　雀	15名
6	音　　楽	14名
7	釣　　り	8名
8	テ ニ ス	7名
8	絵　　画	7名
10	カラオケ	6名
10	ダ ン ス	6名
10	パソコン	6名
10	俳　　句	6名
10	美術鑑賞	6名

８．パソコン環境

便宜的にメールアドレスを有している人をパソコン環境にある人としました。

20歳代から40歳代まではパソコン占率は100%です。50歳代では７名中６名なので、この世代まではパソコン占率100%と言ってよいでしょう。今や仕事にパソコンは不可欠となっていることを示しています。

60歳代以上は年代が上がるにしたがってパソコン占率は低下していきますが、80歳代以上でも３人に１人はパソコンをされているとはたのもしいかぎりです。

目黒稲門会全体ではパソコン人数は109名で、会員168名に対する割合は65%です。

表８　パソコン環境

	人数	パソコン人数	パソコン占率
20歳代	3名	3名	100%
30歳代	3名	3名	100%
40歳代	11名	11名	100%
50歳代	7名	6名	86%
60歳代	38名	34名	89%
70歳代	58名	33名	57%
80歳代以上	31名	10名	32%

会員の広場

部活動に励む人たち

米田文彦（昭和41年　政経）

７月の定時総会では、アトラクションとして応援部女子のチアリーディングによる数々の応援歌を歌うことができた。その飛び跳ねる姿を見ながら隣席の梶幹事に「私はこういう学生と一緒に部活をやっているんですよ」と話したことから、関係している部の状況について書くことになった。

私は学生時代に弓道部で活動したが卒業とともに離れ、再開したのは50歳代である。OB会にも出入りするうち数年前から監督を引き受けている。

部員の事情：

弓道部員は55名（男子35名、女子20名）いるが、入学方法は付属・系属高（学院・早実・早高）卒、一般入試、スポーツ推薦入試等さまざまである。

早稲田の運動部員はどの部員も高校時代は優秀な選手だった、とお考えではないだろうか。決してそうではない。ほとんどは普通の大学生である。だから上手もいれば下手もいる。弓道経験者も初心者もいる。経験者には高校時代に達成しえなかった優勝経験をしてみたい、という人も多い。

部員の在籍する学部はどこが多いのか？現在の部員の約三分の一は理工科系（先進・基幹・創造）である。これは特殊かもしれない。理工科系は4年生になると研究室が忙しくなるのだが、今年も時間をやりくりして弓道と両立させインカレ・リーグ戦に出場している学生がいる。

弓道は基本的に個人競技だから可能なのだろう。全部員、授業優先である。道場は東伏見（早稲田と所沢校舎（小手指）のほぼ中間）にあり、通常授業中の練習は17時半から男子は東伏見、女子は西早稲田の小規模な第二道場で、20時半頃まで行う。

学生は今も昔も金がない。ましてこの厳しい時代、バイトを禁止していたら入部者はいなくなる。某タクシー会社の運転手の夜勤開始時間になったら仮眠しているのを起こす、というバイトは先輩から綿々と受け継がれているものと聞く。

授業、部活、バイト、就活、現代の大学生は忙しい。そこまでして部活をやる理由は何か？

友人関係等も当然あるだろうが、私はその人が弓道の魅力を知ったからだと思っている。私が学院監督時代、ある有望な部員に大学入学後も弓道を続けるか否か質問したところ、「もう止められませんよ」と言ってくれた姿は忘れられない。彼はいまコーチとして助けてくれている。

では弓道の魅力とは何なのか？会心の矢を発射し的中し得た快感、等いろいろな言い方がされるがここでは省略したい。

指導者の事情：

男女別の練習・合宿であり、監督のほかコーチ数名がいる。シーズンは２月～11月頃、日曜日はほとんど試合（練習）が組まれ、私は道場に週４～５日は行っている。昔と違って今の監督はきめ細かい指導を期待される時代であり、部の運営・生活指導についても大きな割合を占めている。

そして目標は日本一、やはり勝つことが求められる。今年のインカレは男子団体３位だった。

本当に良い指導者とは口頭で教えたことを自分が実際にやって見せてやることなのだが、この年齢になるとそうはいかない、練習中の疲労感は増すばかりである。それでも試合では選手と同じ気持ちになって的を狙っている緊迫感があり、それなりの掛け声に部員も応えてくれる。そして、指導に重要なことは相手を良く見ること、全体と細部の動きを良く見ることと思っている。

監督の経済面はどうなっているのか？交通費程度は大学およびOB会から援助してくれるが、部員の栄養補給等、義を見てせざるは…の時もあり、ボランティア精神そのものである。

指導者の人材難は各校各部とも悩みであり、早稲田でも、「弱体化は指導者難から始まるのではないか」という声を聞いたことがある。

また、夕方からの練習に参加すると帰宅時間は当然遅くなり、妻と夕食を共にすることは不可能になる。授業のない休暇中の練習は昼間であり夕方には帰るが、妻には「会社生活は終わったのよ、ほどほどにしなさいよ」と言われているのが現実である。

（編集委註：続編の執筆依頼をしております）

（写真は６月の全関東選手権大会、女子２連覇達成。筆者は右から２人目、日本武道館にて。）

ノーベル文学賞作家
マリオ・バルガス・リョサと私との出会い

林　重雄（昭和41年　法）

それは今から40余年前に遡る。私は大学ではスペイン語研究会に所属していた。その時、国際ペンクラブ会長として初来日したペルーの小説家マリオ・バルガス・リョサの講演を上智大学まで聞きに行ったのが私のリョサとの出会いであった。

マリオ・バルガス・リョサはラテンアメリカ文学を代表するペルーの小説家。1976年～1979年には40歳の若さで国際ペンクラブ会長を務め、この時に来日したリョサに巡り合ったということである。

2010年にはノーベル文学賞を受賞。受賞理由には「権力構造の地図と個人の抵抗と反抗、そしてその敗北を鮮烈なイメージで描いた」とある。これだけでも何やら難しい。リョサの小説はなかなか難解なのが特徴で、しかも多くは大作である。

なお、1990年にはペルーの大統領選挙に出馬したが、アルベルト・フジモリに敗れている。社会構造や、政治への関心が高い小説家である。

リョサの講演を聞いたちょうどその頃、代表作のひとつ、「カテドラルでの対話」が日本で翻訳出版された。講演で興味をかきたてられた私は、早速翻訳本を読んでみた。しかし難しすぎてさっぱりわからなかった。きっと翻訳が下手なのだろうと思っていたが、そんなこともあって、しばらくして原書を手に入れるまでに興味が高まっていた。

700ページ程のスペイン語の原書は翻訳本どころではなく難解で、その後20数年間悪戦苦闘するという目にあった。

しばらくして、日本の入国管理法が改正され、沢山のペルー人が日本に働きに来るようになり、私は彼らのボランティアとして活動するようになった。おかげで何かの折に彼らにリョサ作品の不明点を聞き出すことが出来るようになって、ずいぶん読み込みがはかどって助かったことを覚えている。

又、このボランティア活動によって、スペイン語の会話力がアップするという恩恵を受け、リョサの他の作品も原書で次々に読破するようになった。もしかしたら日本で一番リョサの小説を読んでいるのは自分ではないかと自負している。

翻訳された作品も多く出版されてはいるが、程度の低い翻訳も多い。そもそもラテンアメリカ文学に対する関心が低く、国際ペンクラブ会長だとか、ノーベル文学賞受賞作家だとか言っても、日本ではリョサの名前すら知らない人がほとんどだし、ましてや研究者となると非常に少ない。世界的には、1960年代にラテンアメリカ文学がブームとなったが、日本ではその動きはなく、ほとんど関心は高まらなかった。その分野の専門家が少なかったことや、スペイン語関係者の少なさ・力不足があったことも原因であろう。

私がリョサに出会ったのは、たまたまスペイン語に関心があったからであったが、その時は、まさか将来ノーベル文学賞を受賞する作家になるとは思いもしなかった。又、たった一度の講演会を契機にこれほどのめり込むとは思いもしなかった。しかし、一度はまったらとても面白い小説であることを直感し、以来多くのリョサ作品に接する事が出来たのは大きな収穫だったと思っている。

最近リョサの作品に対する書評を幾つか目にしたが、「難解で、始めのうちは何が何だかさっぱり訳がわからない。しかし、ある一線を越えるととても面白くスムーズに読める」というコメントが多い。

確かに過去・現在・未来の話がいっしょくたに出てきたり、多数の登場人物が同時進行で出てきたり、会話が四方八方に飛んで、読者は頭が混乱してしまう。始めのうちの私がまさにそれであった。それに慣れるまでは大変苦労する。しかし一度慣れてしまうと、確かに面白く、スムーズに読めるから不思議である。ノーベル文学賞作家たる所以であろう。

私は今、五反田の清泉大学でラテン文学コースの聴講生として学んでいる。

本来ならマリオ・バルガス・リョサも教材として使われるのであろうし、私もそれを期待しているのだが、今いるクラスではまだそこまでは進んでいない。しかし何か機会があれば、40余年にわたるリョサ読破の苦労と楽しさの一端を披歴する事が出来ればうれしいと思っている。

編集後記

2012稲門祭で、大隈庭園入口での受付け担当を仰せつかり、指定された2時間程お手伝いをした。

大隈庭園に入って来る沢山の校友の中に旧友の一人でも見つけられないかと期待していたが、今年は一人も会えなかった。

去年はクラブの後輩連中と47年ぶりに出会い、受付業務も忘れて盛り上がってしまった。今年もきっと何人かの旧友が受付の前を通ったに違いないが、お互いに見分けがつかなかったのだろう。

仕方なしに引き受けたつもりの仕事が思わぬ楽しみを与えてくれた。　（地田　記）